



ボーイングの受注拡大で 恩恵のある日本企業

1月27日

ボーイングは“純国産機”

欧米の航空機業界の受注や売上高などが順調に推移している。コロナ禍からの脱却に加えて、ビジネス需要などが活発化していることが背景だ。特に世界最大級の米航空機メーカーであるボーイング社の機体は日本製が多く使われており、関連企業の業績に寄与する可能性が高まりつつある。

アナリストによれば「ボーイングの中型機『787』は、機体構造の約35%が日本製。純国産機ともいえるシェアとなっている」のだそうだ。小型の737型機、大型の777型機についても、日本製部品が多く使われている。

22年受注は前年比6割増

ボーイング社は1月10日に、2022年の受注が前年比約6割増の774機だったと発表した。

ネット受注（新規受注からキャンセルを差し引いた機数）で、これは2018年以来の高水準という。納入（民間機引き渡し数）は同4割増の480機だった。特に小型機「737MAX」が好調で、納入機の約8割を占めたという。

737MAXは18～19年に2度の墜落事故が発生し、航空会社が運航を停止する事態となった。コロナ禍も重なり受注が急減して経緯がある。20年に納入機数は157機にとどまった。20年に米連邦航空局（FAA）の承認を受けて運航を再開。接合部に不具合で一時出荷が停止となっていた「787」も再開されている。コロナ一巡での旅行需要の回復もあり、航空会社からの受注が急増している。株価（BA）も右肩上がり。

中長期的な展望も明るい

ボーイング社は22年11月に開催された投資家イベントで増産を表明している。アナリストによれば25年～26年に787型機を月産10機（22年9月時点で5機未満）、737型機を同50機（同31機）に増やす計画とみられる。

ボーイングは22年7月に航空市況予測（CMO）を発表したが、それによると今後20年間（22年～41年）の民間航空機の新造機需要は4万1170機としている。各国や地域のコロナ禍からの規制緩和により、国際旅客需要が回復・増加傾向にある。なお、ロシア向けについては、ウクライナ侵攻に対する航空機輸出に対する制裁措置により、見通しには含まれていないもよう。

4万1170機の内訳は単通路機（飛行機内部の通路が一つの小型機）3万880機、ワイドボディ機が7230機、貨物機が940機、リージョナルジェットが2120機となっている。また、今後20年間の航空機の納入と関連する商業サービスは金額にして10兆8000億ドル（約1400兆円）に達する見通し。世界の航空機保有機数は、2041年までにコロナ前の2019年比で80%増になると予測している。

関連銘柄筆頭は東レ（3402）

日本企業に既に動きも出始めている。1月14日付の日本経済新聞によれば、東レ（3402）が2025年度までに米国や韓国、フランスにある炭素繊維複合材料（CFRP）の製造拠点の生産能力を増強すると報じられている。投資額は1000億円で、航空機向けの需要回復に対応する。

炭素繊維複合材は強度が鉄の10倍で、剛性は7倍、重さが4分の1。強くてしなやかで軽い。しかも錆びない。東レは2006年にボーイングと独占供給契約を結び、「787」の構造材に全面採用されている。

和島さん注目銘柄～ 東レ(3402)

3402 東レ 東証

チャート 足一覧

日足 1年



ジャムコはラボトリーを独占供給

ジャムコ（7408）

ボーイング向けにラボトリー（化粧室）を独占供給。世界シェアは50%（中大型機）。他社を含め、大手航空会社のファーストクラス用の豪華化粧室も手掛けている。

航空機向けギャレー（厨房設備）でも世界大手。国内外100社超の納入実績。ボーイングやエアバス機向けなどにも供給。限られたスペースでクルーが効率よく使いこなせるデザイン、耐久性を要求される。また、航空機部品の絶対条件である「軽量」、「難燃」という条件をクリア。

機内という限られた空間の中で、快適性と機能性を追求したラバトリー



お客さまにとって機内唯一のプライベートルームとも言えるラバトリー（化粧室）。10数時間にも及ぶフライトでは、化粧室で過ごす時間も大切な旅のアクセント。限られた空間のなかでいかに快適で、くつろげる空間を演出するか、質感、機能に徹底的にこだわる一方で、「軽量」という絶対条件に対してはコア・コンピタンスである「軽量化技術」を駆使し、これを具現化してきました。また、航空機に最も重要である安全への配慮は言うまでもありません。

› 航空機整備

ジャムコHP ファーストクラス用

和島さん注目銘柄～ ジャムコ(7408)

7408 ジャムコ 東証

チャート 足一覧

日足 1年



その他の関連企業

大阪チタニウムテクノロジー（5726）、東邦チタニウム（5727）

航空機の機体やエンジン部品に使われる高品質スポンジチタンの世界大手。世界大手のロシア産の代替需要にも期待感。

大同特殊鋼（5471）

自由鍛造品と呼ぶオーダーメイドで作る鍛造品の売上高が拡大傾向。ボーイング向けにはエンジンシャフトが「787」の全機に搭載されている。

三菱重工業（7011）

ボーイング「787」向け複合材主翼、「737」には内側フラップ（可動翼）などを供給。エアバス向けにはエンジン用の燃焼器などを手掛けている。

SUBARU（7270）

水平尾翼昇降舵

ナブテスコ（6268）

アクチュエーター（姿勢制御装置）

和島さん注目銘柄～ 大同特殊鋼(5471)

5471 大同特殊鋼 東証

チャート 足一覧

日足 1年

